

これまでの平和を学び これからの平和を考える旅

次世代向け広島平和学習中学生派遣事業報告書

令和5年度 中野区平和基金活用事業



28年ぶりの平和の旅

平和が次世代にとって

自分事になることを願って

広島・長崎に原子爆弾が投下されてから78年が経過しました。あまりにも多くの命が奪われ、今もなお後遺症に苦しむ人も多く存在する、我々にとって決して忘れてはならない歴史です。しかし、一方で、当時の戦争や原子爆弾の被害を実際に知る方たちは高齢化し、その実相をつぶさに語ることができる人材は年々減ってきています。

中野区は昭和57年に「憲法擁護・非核都市」の宣言を行って以来、さまざまな平和に関する事業を実施してきました。そのなかで、「平和は語り継ぐものである」こととともに、「次世代が平和について自分事として自ら考え学ぶ」ことをより強化していくこととしました。これに伴い、原爆被爆地である広島へ、区内在学の中学2年生を派遣する平和学習事業「平和の旅」を平成7年度以来となる28年ぶりに実施しました。

平和の旅では、当日のみならず、広島の平和記念公園内に設置されている「原爆の子の像」の建立のきっかけとなった佐々木禎子さんの甥である佐々木祐滋氏を迎えて事前学習会を行ったり、旅の振り返りや平和メッセージの作成などの事後学習会を行うなど、より「自分事」としての学びの場を提供するよう努めました。

この報告書は、事前学習会、事後学習会も含めて、参加した生徒たちの体験の記録であるとともに、生徒たちがどのようなことを感じ、学び、生かそうと思ったのかを綴ったものです。

この報告書が、我々も含め、戦争を知らない世代が平和について考えるきっかけになれば幸いです。

令和6年2月

憲法擁護・非核都市の宣言

まちには こどもの笑顔がある

ひろばには 若者の歌がある

ここには 私たちのくらしがある

海を越えた かなたにも

同じ人間の くらしがある

いま 地球をおおう 核兵器は

あらゆる いのちの営みを

この しあわせを 奪い去る

わたくし

私たちの憲法は

くらしを守り 自由を守り

恒久の平和を誓う

私たちは この憲法を大切に

世界中の人びとと 手をつなぎ

核をもつ すべての国に

核兵器をすてよと 訴える

この区民の声を

憲法擁護・非核都市 中野区の

宣言とする

昭和五十七年八月十五日

中野区



内容

平和の旅・広島 2023 に参加したみなさん	5
事前学習会	6
12月2日(土) 東京 → 呉	8
12月3日(日) 広島市内 → 東京	10
事後学習会	13
作文集	14
中野区のおもな平和事業	25

平和の旅・広島 2023 に参加したみなさん



阿部 月弥 さん



伊藤 佳也乃 さん



大嶋 珠穹 さん



神永 響也 さん



川内 久美子 さん



クレメンティディアルビッツィ
海路 さん



新澤 はな さん



鳥海 まどか さん



馬渡 琴 アレッサ さん



森内 凜音 さん

事前学習会

日時 令和5年11月19日(日)13:30~16:50

場所 平和資料展示室(中野区立総合体育館内)

<プログラム>

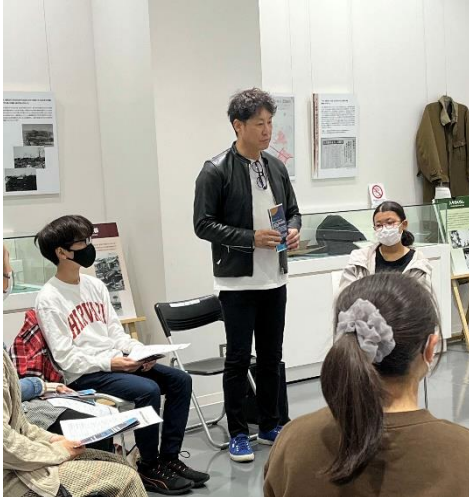
- 1) 自己紹介
- 2) 平和についての学習会
- 3) 佐々木祐滋氏による講話
- 4) 折り鶴プロジェクト参加



事前学習会を終えてみんな一枚

講話

広島市の平和記念公園内にある「原爆の子の像」建立のきっかけになった佐々木禎子さんの甥、佐々木祐滋氏から原爆被害を受けた禎子さんの話や、平和のためにどんな活動をしているかの話を聴きました。



折り鶴

参加者の折り鶴は、旅の当日まで平和資料展示室にある佐々木禎子さんの折り鶴（実物・レプリカ）と一緒に過ごしました。また、平和資料展示室にて常時実施している折り鶴プロジェクトで作成した千羽鶴は、区民の方の思いとともに、広島市の原爆の子の像へと届けました。



左：佐々木禎子さんが病床で折った折り鶴（実物）
右：レプリカ（G7 広島サミットで各国首脳に配付）
どちらも平和資料展示室で常時展示中



折り鶴プロジェクトで
作成した千羽鶴

12月2日(土) 東京 → 呉

7:00
集合出発～
中野区役所発



区役所前で集合



新幹線で約4時間の長旅

～12:02
広島駅着



広島駅へ到着して一息

12:50
呉駅着
昼食
ハイカラ食堂



ハイカラ食堂 海自カレー



大和ミュージアム戦艦大和の10分の1模型

13:45～
大和
ミュージアム

16:00～
堺橋



堺橋(呉市を舞台とする映画のロケ地)

16:20
呉駅発



実際に体を動かす
タイプの展示も!



12月2日(土) 東京 → 呉

18:05
ホテル到着



学習の1日を終えて
広島駅直結のホテル
に到着

19:00
夕食



ホテル内レストランでの夕食



地産地消にこだわったメニューに舌鼓♪

20:00～
振り返り
学習会

知っていた歴史と実際の歴史とが違って
いた。

戦艦大和の技術
は、現代のものづく
りの技術として役
に立っていることを
学んだ。



景色がきれいだったが、爆弾
はこの景色も破壊したのだと
学んだ。

戦艦大和をつくった技術力は、
平和な時代であれば日本を世
界に進展させるものになってい
たと思う。

戦争は映画や本の中の出来事だ
ったが、実際の写真や亡くなった
方の名前を見て実感がわいてき
た。明日、もっと実感を強めたい。

戦艦大和に乗っていた人のボイスメッ
セージを聞いて、死を覚悟しなければ
ならないのはおかしいと感じた。

12月3日(日) 広島市内 → 東京

8:30～

ホテル発

平和記念資料館へ



広島平和記念資料館入口の「地球平和監視時計」

訪問した令和5年12月3日は

広島への原爆投下の1945年8月6日から28,608日

最後の核実験から808日だった



子どもの被害者とその遺品



原子爆弾が燃え広がる様子を
CG展示で学ぶ



被爆したまちの残骸から原子
爆弾の破壊力を知る



佐々木禎子さんが病床で
折り続けた折り鶴たち

12月3日(日) 広島市内 → 東京

10:30～

平和記念公園
内の碑巡り



広島市観光ボランティアガイドにより、平和への強い思いとともに様々な記念碑などを巡りました



原爆ドームとともに



原爆死没者
慰霊碑へ献
花しました



原爆の子の像へ千羽鶴を
捧げます



中野区平和資料展示室で「憲法擁護・非核都市」の宣言40周年の令和4年8月15日までに、区民のみなさんが折った折り鶴と、参加者の折り鶴を原爆の子の像に捧げて、みんなで平和を祈りました

12月3日(日) 広島市内 → 東京

11:45~

昼食

むすびの

むさし

土橋店



広島名物で栄養チャージ!



まちの文化とともに料理の
説明をしてくれました

13:43~

広島駅発

18:20

中野区役所前

解散



2日間お疲れ様でした





みんなと一緒に旅をした

みんなで作った

フラッグさんも

お疲れ様でした

<h1>事後学習会</h1>	<p>令和5年12月26日(火) 13:30~16:30 平和資料展示室(中野区立総合体育館内)</p>
<p><プログラム></p> <p>1) 旅の振り返り</p> <p>旅から約2週間。あの時に感じたことを自分ごとにするために振り返ってみました</p> <p>2) 平和メッセージの作成</p> <p>平和への想いを自分だけのことではなく、みんなへ伝えるための言葉を考えてみました</p>	
	<p>旅で学んだことや感じたことを あらためてみんなと共有しました</p> <p>時間が経ってみて、みんなへ伝えることを考えると、みんなと交わした言葉が新たな気づきを生んでくれているようでした</p>
<p>平和のために自分たちは何ができるのか どうしたら平和になるのか 話し合いながら一人一人が自分なりの言葉を 考えていきました</p>	
	<p>自分が人に伝えたい「平和メッセージ」を 思いとともに発表しました</p> <p>それぞれが考えた言葉は、この旅のことをより多くの人に伝えるために冊子にしたり、平和のつどいで自分たちの言葉で伝えてもらうことをイメージしてもらいました</p>

平和について

何を思い

何を感じて

どう考えたのか

それぞれに言葉を紡いでもらいました



作文集



表現等は生徒の意思を尊重し、そのまま掲載しています。



僕は12月2～3日に広島に行きました。とても楽しくて、新しく知ることがたくさんありました。その中で印象に残ったことや考えたことなどを書いていきます。

まず最初に大和ミュージアムに行きました。来て最初に戦艦大和の10分の1模型にすごい驚きました。すごく大きくて10分の1だけどたくさんの人が乗れそうな大きさでした。そして再現度も高く、戦艦の先まで精密に再現してありました。それを見た後に呉の歴史の資料を見たのでとても壮大な感じがわかりました。そして他にも当時につくられていた道具や機械などの模型がたくさんあって、それらをつくった技術にもとても強い尊敬の気持ちを抱き



ました。今から何十年も前につくっていた物とは思えなかったからです。だけど、その素晴らしい技術をその当時人を殺す兵器に使っていたことがとても悲しくも思いました。

2日目は平和記念資料館に行きました。その当時から残っている物や生き残った人の描いた絵などを音声とともに観ることができました。すごく痛々しくて、少し怖かったです。だけど歴史が好きな自分にとっては日本史の新たな知識を得るための良い機会でした。それと実際に平和記念資料館に行って観ていくと「この歴史は絶対に忘れてはいけないものだ」と行く前とは比べものにならないくらい感じました。ぱっと見海外からの人が多かったのも、その人達もその気持ちを感じているといいなと思いました。みんなが平和であることを願い続ける世界がいいなと思います。

この平和の旅を通して、戦争などに関して色々な知識がつかえました。それらから今過ごしている日々はとても平



和なものなのだと再認識しました。この平和な日々を守るために僕にできることは、戦争というものがやってはいけないもので、この平和はとても尊いものだということを忘れないでみんなに伝えていくことであると思いました。

あべつきや
阿部 月弥



【平和担当】楽しむことを考えて争いをなくしたいですね

広島で学んだこと

私は平和の旅で広島に行ったことで、この日本でかつて実際に戦争があり、広島には原子爆弾が投下されて亡くなった方々がたくさんいたという現実を目の当たりにしました。今まで、学校の授業で戦争につ

いて学んだり、お話を聞かせていただいたりしてきましたが、自分が想像していた以上に戦争は悲惨で残酷なものだったということが分かりました。

一日目に行った呉にある大和ミュージアムでは、日本の造船技術力の高さを知ることができたり、戦艦大和の最期、特攻隊のことについて深く学ぶことができました。一番印象的だったのは、特攻隊員の方の実際の音声を聞いたことです。出撃を待つ間、大切な人たちと永遠に別れなければならないと思うとどんなに無念だったのだろう、それでも特攻隊に選ばれたことを誇りに思わなければならないこの時代は辛か



ったのだろうかあと思いを馳せました。

二日目の平和記念資料館では、焼け焦げた三輪車や被爆した方々の写真や絵、実際に着ていた服などを見ました。一瞬にして人々の尊い命を奪った原爆の恐ろしさを目の前にすると、目をそらしてしまいたくなりましたが、

被爆して亡くなった方々の中には、自分と同年代の中高生も多くいたということが分かり、胸が痛みました。

二日間、平和について目で見、耳で聞いて、心で感じながら学習してきました。参加する前は、戦争についてどこか他人事で過去のものだと思っていました。広島の歴史にじかに触れて、こんなに悲しい歴史は絶対に二度と繰り返してはいけないと強く思いました。

私は、平和な時代の日本に生まれ育っています。世界に目を



向けると、ウクライナやロシアなど、今この瞬間も苦しんでいる人々がたくさんいます。

平和のためにできることは、自分たちが争いを起こさないことだと思います。まずは、私が家族や友達、身近な人たちを大切にしていきたいです。今回、広島に行くことができて本当に良かったです。戦争の恐ろしさ、命の大切さ、平和の尊さを未来に伝え続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

いとう か や の
伊藤佳也乃



【平和担当】繰り返さないために必要なこと、みんなで考えていきましょう

私は「平和の旅」に参加するまでは、平和や人権について、ある程度関心をもち、理解している方だと思っていました。それでも実際に戦争のことについて触れてみると、想像していた何十倍も重く、複雑で、当時のことを何も知らない私には理解するのが難しいことでした。これまで自分が理解していると思っていたことは戦争という大きな出来事のほんの一部分でしかないことに気づき、そんなわずかな情報で“理解している”と思っていた自分が嫌になりました。

直接、爆弾の被害に遭った人もいれば、戦時中の厳しい食料不足で亡くなってしまった人、終戦後も長い間、後遺症や偏見で苦しんだ人やまたその家族など、数えきれない程の命が失われ、体と心にどれ程の深い傷を戦争という一部の人達が起こす武力衝突が負わし

たのかを考えると、悲しさと同時に怒りのようなものが湧いてきました。しかし、この感情自体が小さな問題を“戦争”という国、世界を巻き込んだ問題に

発展していくのだと私は思います。戦いではなく、理解しようとするのが平和へ少しでも近づく唯一の手段

であり、すべき事なのだと戦争について知っていく中で、何度も感じました。でなければ、戦争が新たな戦争を引き起こし、この世界から決して戦争がなくなる、恐ろしい悪循環のみが生まれてしまうからです。



きっと実際に戦争を体験していない私達は、完全に当時の出来事について理解できる日は来ないと思います。しかし、

少しでも知ろうと思い、次の世代へ伝えていくこと、それだけが今を生きる私達にできることだと思います。

そうして、人から人へ伝わり、一人一人が“平和”について一生懸命考えることができる世界こそが、“平和な世界”を作っていく第一歩なのです。

知るだけでなく伝えていく、そうして日本から世界へと平和の輪を広げていきたいと思いました。

おおしま みく
大嶋 珠穹



【平和担当】やさしく鳩を飛び立たせられるような世界にしたいですね



広島に平和を学びに行って

僕はこの旅で原爆についてとても印象に残っています。旅に行く前の僕は原爆について一瞬で全てを消し去るものという印象しか持って

いませんでした。しかし平和記念資料館の原爆の悲惨さは想像していたものを遥かに超えるものでした。原爆の影響は一瞬には収まらず被爆後も

苦しむ後障害の存在もありました。放射線による被害や火傷が治った後に発症するケロイド、白血病などが多くの人を苦しませてきました。また、原爆の悲惨さを学んだ後に回る平和記念公園はとてもボランティアガイドさんの言葉一つ一つが心に刺さりました。特に平和の灯で言っていた「この火はいつ消えるんかいうたら地球上から核兵器がなくなるまで燃え続ける」という言葉がとても刺さりました。このボランティアの方は実際に



被爆したわけでもなくただボランティアをしている方なのに、これほど印象をつけさせることができるのはすごいなと思いました。

平和記念公園はこのような物と人で未来に平和に向けた

これまでの活動や、昔こんなことがあったからこういう建物が建てられているんだよと言った過去を物語る建造物も建っていました。

広島から帰ってきて僕はこれからどんなことが平和につながるのか考えたとき、やはり今はインターネットや辞書などが

多く残されていて時間もあるので知識を蓄えていくことが大切なのはと思いました。もうすぐ14歳にもなる僕でもやはり伝えるという活動や何かを残すという活動もやはり相手の心に残るかと考えたらやはり残らないと思います。

なので今は様々な知識を得



て様々な視点から物事を見ることをしていき、伝えることがうまく出来るようになったら行動に移して自ら平和を作っていけたらいいなと僕は思います。

そして今回行った企画が広がり、平和についてみんなが理解し、考えられるようになっていくことで世界が平和になっていくのではないのでしょうか。

かみながきょうや
神永響也



【平和担当】憎む前にお互いに解り合うことが大切ですね

2023年5月19日にG7
広島サミット各国首脳らが原爆
資料館を訪れました。これが私
の原爆ドームについて興味を
持つきっかけになりました。今
まで平和な日常が当たり前す
ぎて平和に感謝することがあ
りませんでした。

事前学習で佐々木禎子さん
の甥、佐々木祐滋さんが禎子
さんの話を中心に戦争につ
いて話して下さいました。
禎子さんは2歳の
時に被爆し元気な女
の子として育っていま
しが被爆から10
年後に白血病と診断
され入院しました。入
院している中、禎子さ
んは「生きたい」とい
う願いを込めて薬の袋などで
鶴を折っていました。禎子さん
の実際に折った細かい鶴を見
ていたたまれない気持ちにな
りました。

一日目の大和ミュージアム
では、原爆が落ちた瞬間の写
真に圧倒されました。光で一面
真っ白になっていて驚きました。

二日目の平
和記念資料館
では、被爆され
た人の焼け焦げ



た遺品、ボロボロになった衣服、
爆風で吹き飛んだ建物の残骸。
特に被爆した三輪車を見て罪
のない小さな子供の命を一瞬
にして奪ってしまう原子爆弾は
恐ろしいものだと思いました。
また、資料の中には眠ると死体
に間違われて焼かれてしまう
という言葉がありました。その言
葉からも亡くなった人と生きて
る人の区別さえできないほど、
沢山の人がなくな
ったんだと思い
悲しい気持ちにな
りました。

平和記念資料館
見学後、原爆ド
ームを見に行きまし
た。建物のレンガは
崩れかけ、ドームの
上の屋根は鉄骨だけになっ
ていました。テレビなどでよく見
ていましたが、直接見ると言葉
が出ないようなありさまでした。

私は、今回の旅で原爆の威
力や恐さ、命の尊さ、平和であ
ることのありがたさなど沢山の
ことを学ぶことができました。8
月6日に起こった約14万人の
命が奪われた
広島原爆。こ
れから先、二度
と同じことを繰



り返さないようにするために自
分たちが今回学んだことを次
の世代にもしっかり伝えてい
くのが大切だと思いました。そし
て、今回学んだことを今後生か
せるようにしたいとおもいま
した。

かわうちくみこ
川内久美子



【平和担当】今の平和を生
み出すために、たくさんの人
びとが命を落としたり苦しみ
続けていることを忘れないよ
うにしましょう



僕は12月2日から3日にかけて広島に行きいろんな得た事がありました。それを順に話していきたいと思います。

まず、この旅で得たことは「知識面」と「気持ち面」の2つの事でした。

知識面では、大和ミュージアムに行った時、ヤマト戦艦の十分の一の模型を見て、小さいなと思いこんな弱い戦艦で飛行戦と戦っていて約3,000人もの無駄な犠牲者を出したというのがより分かった事。また、平和記念資料館では、原爆被爆後の犠牲者の写真、資料、手紙等を見て、原爆被爆後に流行した病気やそれに苦しん



でいる人たちの声を通し、少しその人達の苦しみを感ずる事が出来た事。その後平和記念公園を探索している時にも、公園の構造やいろんなものが建てられた理由などがわかりました。構造で言うなら、広島平和記念資料館(本館)、原爆死没者慰霊碑、平和の灯、平和の池、と原爆ドームがー列に綺麗に並んでいるところです。建てられたもので言うと、韓国人原爆犠牲者慰霊碑という原爆で死亡した韓国人の墓である亀の像は韓国の方を向いているというところですよ。

気持ち面では、戦争は何かを解決する方法としてほぼ最悪な方法だという気持ちが強まった事ですよ。その気持ちが強まったのは、広島プロジェクトを通していろんな場所に行きいろんなことを見て知った事が理由です。また「武器」に対しての気持ちも少し変わりました。それは、武器とは人の心で武器になるかならないか決まると言う事ですよ。つまり、武器は人間の悪の魂が宿ったものなのです。なぜなら、この世のすべてのものが武器になれるからです。例えば服やペン、水、土など。

今回のプロジェクトを通して「戦争」と「武器」のあり方や考えを深めるため、これから戦争について色んなプロジェクトや集まりに参加して、自分からも積極的に戦争についての自分の考えを発信していこうと思いました。そして、戦争についてもっと世界中の人に考えてほしいと思います。

クレメンティディアルビッツィ

みろ
海路



【平和担当】戦争を引き起こす邪悪な心を地球から、人類から取り除いていくことが大切ですね。

『平和の旅を終えた私に出来ること』

「この地面の 50cm 下には、8 月 6 日の広島地の獄の姿が残されているんですよ」

記念公園のボランティアガイドさんの言葉は、恐ろしさのために半ば逃げるように広島平和記念資料館を後にした私の胸をえぐった。



私は初めて、広島平和記念資料館に訪れた。足を踏み入れた瞬間、大きなショックを受けた。そこには、想像を遥かに上回るような原爆の実相があったからだ。水を求めて呻く人々の姿。自分と同じ中学生、それ以下の年齢の子の焼け爛れたり、真っ黒に炭化したりした遺品。

前日、大和ミュージアムで被爆前の人々の生活が栄えていたことを学んだこともあり、日常を奪われることへの恐怖が込み上げてきた。

特に目にとまったのは、「生

きる」というテーマのもと展示されていた、佐々木禎子さんが自身の白血球の数を記録していたというメモだった。幼い字で、一所懸命に記録していた様子が伺えた。禎子さんは、闘病中家族に心配をかけぬよう明るく振舞っていたそう。辛かっただろう、苦しかっただろう…やるせない気持ちになった。8 月 6 日をどうにか生き延びたとしても、様々な形で被爆した人の体は蝕まれ続けることを学んだ。

今回の平和の旅で、私が今まで持っていた原爆と戦争の知識は、とても浅はかだったこ



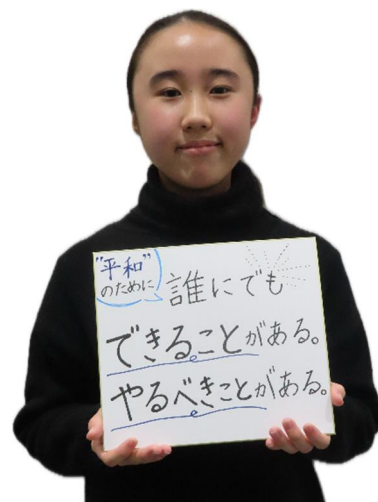
とに気づいた。また、広島原爆の真相について触れて、現代でもなお各地で戦争が起こっている事への脅威、危機感も高まった。私たち中学生は、大きなアクションを直接起こすことはまだできない。しかし、これから生きる上で、戦争について「知る」、「考える」、そして「伝える」とい

う 1 歩は誰でも踏み出さなければならぬものだ」と学んだ。

私は正直、今回の平和の旅で感じたものたちを実際に声に出して伝える勇気が

芽生えていない。怖いし、辛い。が、「原爆ドームを後の世に遺そう」「記憶を伝える資料を遺そう」という勇敢な人々に感銘を受けたのは確かだ。これからの将来、私も自分なりの形を見つけ、必ず今回の経験を伝え、さらに戦争と平和について考えて行きたいと強く思う。

しんざわ
新澤 はな



【平和担当】自分ができ
ることをみんなで探したいです

私は今回の平和の旅を通して戦争の残酷さや悲惨さを改めて感じることが出来ました。1日目の大和ミュージアムでは戦争で使われた戦艦や特攻隊に使われた機体の大きさ、戦艦に乗っていた人やその家族の思いを学ぶことが出来ました。1階の大和広場では戦機を乗せた戦艦大和の10分の1の模型がありました。

自分が思っていたよりはるかに大きく実際に使われていたことに恐怖を感じるとともに当時の技術の

発達をととも感じました。館内には戦争に加わった人の写真や戦艦に乗っていた人の遺書が展示されていました。遺書は離れ離れになった家族を思いやる内容が多く、カタカナで書いてあるものもありましたが、私たちが日常で使うような平仮名と漢字で作られた分で書かれた遺書もあり、今までは遠い存在だった「戦争」が急に近くに感じられ、こんな悲惨なこ

とが現実で起こったことを改めて実感し展示を見ていて悲しかったです。

2日目の平和記念資料館では原爆の威力はもちろん被爆者や被爆直後の広島について知ることが出来ました。被爆者や原爆の被害を受けたお弁当箱、三輪車を見ると原爆と

いうモノがどれだけの人を傷つけどれだけのものを奪ったのか、なぜこんなモノがつくられてしまったのかなど様々な疑問が

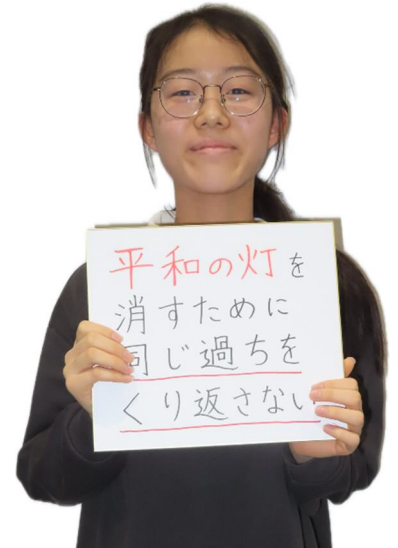
浮かびました。また、原爆による悲惨さを後世に残し二度と同じことが繰り返さないようにするため、人を傷つける兵器を生み出してしまった後の結末を忘れないようにするためにこの資料館がつくられたのではないかと思います。平和記念公園内では平和の灯や国関係なく被爆した人たちの慰霊碑があったり、千羽鶴が飾られていたり、戦争を二度と繰り返さないという強い思いを感じました。

現在日本では行われていないものの戦争はロシ

アとウクライナ、イスラエルとパレスチナなどなくなっているいません。戦争が増えれば増えるほど傷つく人は増えていきます。一人で戦争を無くすためにできること

は少ないけれど戦争について知り、だれかに伝えていくことで戦争は無くなっていくと思います。戦争がなくなり平和の灯も消え、人々が協力して生活できる世の中を世界全体で作っていきたいです。

とりうみ
鳥海まどか



【平和担当】核兵器を地球上からなくして、平和記念公園の「平和の灯」を消せるようにみんなで頑張っていきたい



今回私が広島に行って感じたことは、絶対に戦争は繰り返してはいけないということ、そしてそれを深く受け止め自分達ができることを精一杯行わなければいけないということだ。

呉の大和ミュージアムに行った際、戦艦大和に乗る人の家族に向けたボイスメッセージを聴いた。これを聴き私は「直接別れを告げることも出来ないのか」と感じた。それと同時にまだ先が長い人生を戦争のため捨ててしまうという選択をした日本が正しいと皆思っていたことに驚いた。

平和記念資料館に伺ったときには資料を直視できず目を覆う人もいれば、真っ直ぐと見つめる人もいた。特に印象的だったのは、外国人観光客が資料を真っ直ぐ見つめていたことだ。彼らの

瞳は母国がしたこと
は揺るぎない事実で
あり、もう起こしては
いけないことだと語
っているように見え
たのである。また今、
このように外国人観
光客が多く来るよう
になった過程には、
どのような出来事が
あったのかより気になった。



可能に近いが、この
ように平和を訴える
作文を創作したり、
皆が力を合わせれ
ばできるのではない
か。

二度と戦争は起
こしてはいけない。
私はその事を深く
受け止め、自分達

ができることを精一杯行ってい
きたい。

まわり こと
馬渡 琴 アレッサ



広島、長崎に原
爆が落とされ多くの
人が亡くなり、傷つ
いた。核兵器反対の
運動が日本では積
極的に行われてい
るが、まだ戦争や紛
争を行っている国が
多くある。皆平和を
求めているのに、な

ぜ人を傷つけるのか。私は戦
争といじめには似ているところ
があると考え。一定の対象を
傷つけるのは、言葉であっても
変わらない。世界から戦争をな

くすためには、身
近なところから変
えていかなけれ
ばならないので
はないか。私達
一人ずつでは世界
を変えることは不



【平和担当】小さなことでも
多くの人の思いが繋がれ
ば、何かを動かすことがき
っとできます



1945年、8月6日、午前8時15分、原爆が投下されました。約43秒間落下した後、相生橋(あいおいばし)よりやや南東の島病院付近高度約600メートルの上空で核爆発を起こしました。核分裂により大量の中性子線が放出されました。亡くなった方の人数は正確に分かりませんが、約14万人もの人が一瞬の原爆で亡くなりました。また周りは一瞬で焼け野原になりました。しかし、私

がみた広島はそのような過去があるとは考えられないほどとても賑やかなお祭りをやっていたり綺麗な海の風景を見ることができました。

広島駅の近くのヤマトミュージアムに行きました。入ってすぐのところに戦艦大和の10分の1模型があり、とても大きく驚きました。ヤマトミュージアムでは色々な戦艦の模型や呉の歴史、造船製鉄などの科学技術が体験を通してたくさん学べます。ヤマトミュ



ージアムの中で私が印象に残ったものは戦艦大和で亡くなった人の名簿です。戦艦大和は2時間ほど戦ったのち沈んでしまいました。乗員3332人のうち3056人が戦死しました。生還者は276人では1割にも満たなかったそうです。ほんの2時間の戦争でこんなにも人がなくなっただと考えるととても残酷だと感じました。

次に、平和記念公園での印象に残ったことについてです。原

爆死没者慰霊碑とやはり原爆の子が特に印象に残りました。原爆死没者慰霊碑では『安らかに眠ってください 過ちは繰返しませぬから』というヒロシマの強い意志が伝わりました。原爆の子の像では私は実際に原爆を体験していませんが、禎

子さんのお話を詳しく聞いて、原爆の辛さが少しわかった気がしました。また禎子さんの家族への優しさがよくわかって一番近い存在だからこそ



大切にしないといけないと思いました。

私は広島に行く前までは海での戦争や広島の前爆についてあまり触れてきませんでした。しかし、今回今まで考えられていなかったことまでたくさん考えられました。今まではまず知るという立場でしたが今後私は色々な人にこの過去を語り続けていきたいです。

もりうち りおん
森内 凜音



【平和担当】つらくても「二度とあってはならない」ために、多くの人に伝えていきましょう

中野区のおもな平和事業

平和企画展示	<p>年4回程度、平和資料展示室や区民活動センターなどで、平和に関するさまざまなテーマでパネル展示を開催。</p> <p>中野の空襲や広島・長崎の原爆被害についてのほか、世界で起きている諸問題についてのパネル展など、幅広いテーマで企画しています。</p>
平和のつどい	<p>毎年夏頃に、なかの ZERO にて平和イベントを行っています。内容は平和に関する映画の上映会や講演などです。令和6年度の平和のつどいでは、今年度の平和の旅参加者による報告会を行う予定です。</p> <p>※令和6年7月27日(土) 予定</p>
平和資料展示室	<p>中野総合体育館内にある平和資料展示室の運営を行っています。区民の方からの寄贈品の展示や、平和の語りべの映像、平和に関する書籍を見ることができます。また、平和メッセージの募集や今回の旅で「原爆の子の像」に捧げた千羽鶴を作るための「折り鶴プロジェクト」も常時行っています。</p> <p>※折り鶴プロジェクトとは</p> <p>平和資料展示室には折り紙が常設しており、折り鶴を折ることができます。</p> <p>身近な人の平穏な日々を願いながら、戦争で犠牲になられ方々に思いを馳せながら、今も紛争が続く世界の国々について考えながら、平和への思いを新たに作る時間としていただければ幸いです。</p>
平和基金	<p>令和5年度から、平和事業は基金を使って実施しています。基金の運用益は平和事業の運営費に充てています。</p>



 中野区